

令和3年度 富山市通学区域審議会
第5回審議会における審議とりまとめ（案）

I 大沢野・細入地域

—ポイント—

- 社会性の育成や発達段階を考えると、中学校を先に統合することも考えられるのではないかと。一方で、発達段階や低学年の通学に対する負担という側面を考慮すると、小学校の統合は慎重に考えた方がよいのではないかと。
- 保護者や地域と議論を進める上では、統合する場合、しない場合それぞれにおいて、教育上どのような配慮が求められるのか、また、制約はなにかなどを示すことが大切ではないかと。
- 再編原案に限らず、多様な学校のあり方を模索していく必要がある。

1 通学距離・通学時間について

- 楡原中学校から大沢野中学校までの距離は約7.5kmだが、細入地域は南北に細長く、最も遠い県境の谷・中山地区から大沢野中学校までは約18kmある。パブリックコメントでは、車酔いやトイレ、体調不良時のお迎えなどについて心配する意見も見られた。〔学識経験者〕
- 小学生にとっては大沢野小学校までのバス通学は辛いかもしれないが、中学生は体力面も発達しており、また高校へ進学すれば通学先が遠くなっていくので、発達段階ごとに通学距離を伸ばしていくのはよいのではないかと。〔学識経験者〕

2 中学校の統合の必要性について

- 中学生は、合唱コンクールや体育大会、部活動をはじめとする集団活動での経験をとおして、互いの価値観の違いや、自分と異なる考えに出会い、対立するだけでなく折り合いをつけることの必要性を学ぶなど、社会性の育成において大事な時期である。
一方で小学生は、低学年では集団でのルールを守る態度や善悪の判断、高学

年では他者への思いやりなどを、様々な体験を通じて学ぶ時期である。地域との協働の中で小学生の育成が可能であるならば、小学校を残して中学校を統合する案も考えてよいのではないか。〔学校関係者〕

- 中学生については、同世代の中で多様な意見に触れて人間関係を構築し、社会に出るための能力、例えばコミュニケーション能力を育んでいかなければならず、中学校の再編は急務である。

小学生については、地域の中で育む時間が大切である。保護者、地域へ丁寧に説明し、ご理解、ご意見をいただくというステップを踏んでいくことが妥当ではないか。〔学識経験者〕

3 保護者と地域の合意形成について

- スクールバスは負担だと考えているのか、それとも多様な価値観、多様な学びに触れさせたいと再編を希望するのかどうかについて、保護者がどう考えているのかも注視し、地域、保護者、今後入学してくる子どもの保護者との合意形成を図ることが大事である。〔学校関係者〕

4 求められる配慮や多様な教育環境について

- 地域や保護者と客観的かつ丁寧に議論を重ねていくためには、再編案を示すだけではなく、統合する場合、しない場合それぞれに対して教育上どのような配慮が求められるのか、制約はあるのかなども併せて示すことが大切ではないか。〔学識経験者〕
- 小中一貫校や義務教育学校の設置といった多様な学校のあり方についても検討してほしい。〔PTA代表者〕

Ⅱ 大山地域

—ポイント—

- 複式学級の解消を優先的に、地域と保護者の間で合意形成がなされたところから統合するなど、最終統合の形を示しつつ地域や保護者の声を聞き、柔軟に統合を進めるのがよい。
- 特色ある教育環境をどのようにして引き継いでいくのか、検討することが大切である。

1 段階的統合の進め方について

- 複式学級の解消を優先するなど、統合の順序や組み合わせ等については、地元の意見を聞いて進める方がよい。〔学識経験者〕
- 上滝小学校、福沢小学校、小見小学校でそれぞれ状況が異なるので、地域や保護者の統合に対する意識も異なるのではないかと。最終的なゴールを示しつつ、地域と保護者の間で統合の合意形成がなされたところから統合を進めていくのがよいと思う。〔学校関係者〕

2 特色ある教育環境の継承について

- 小規模特認校である小見小学校は富山県で唯一、スキージャンプを教えている学校である。特色ある教育環境を残すことも検討するとよいのではないかと。〔PTA代表者〕

3 通学距離・通学時間について

- 最も遠いと思われる栗巣野から上滝小学校まで、平常時はスクールバスで1時間以内ということだが、小見地区は雪深いので、冬期間の降雪時には平常時よりも時間がかかると思われる。〔学識経験者〕